

左衛門歓迎会 席題「柳散る」

(曲水3-5)

柳散る市に日輪大いなり

柳散る日向日陰や荷足舟

吟社十一月例会 席題「秋の雲」

柿

巖壁を離れぬ舟や秋の雲

誰か出て背戸の柿搦ぐ月夜哉

句 帖

(曲水3-6)

野分空に吹き流さる、雀かな

十六夜の更け来し雲や川二階

臥待やもの煮えてゐる妻の鍋

吟社師走例会 席題「八ッ手他」

(曲水3-7)

花八ッ手昨日に同じ干衣かな

■大正8年

近 詠

(曲水3-9)

樑葉の霜に庵の日さし初めたり

鶏林俳句集 第二集

(曲水3-10)

元日や暮れなんとする比良の雪

咳や石に逃げたる三十三才

麗 (選者吟)

麗かに瀧の遠音や山番屋

麗かの井戸の端なる茶碗哉

七月七日 青木幸太郎 (道後霊ノ湯の写真ハガキ)

伊予道後温泉鮎屋方 海野厚一

いづぞやお邪魔いたしました。月初めから急に思ひ立ってこちらに参つてをります、思ひきつて浮世ばなれがしたいと思ひますから参つてからまだ一度も新聞も見ない始末です、たゞ毎日湯に浸るのが仕事のやうです、こちらは客がてんでに手拭をさげて温泉場に出掛けるしくみで、一寸面白いところです。松山とは電車で十分城山の天主がよく見えます。昨日一日晴れたきりで毎日の雨には弱つてをります、またいづれ 皆様によろしく

七月八日 加藤 余石宛 静岡市呉服町静岡銀行内

(道後カラ松山城ヲ望ム写真ハガキ)

道後 湯の町 ふな屋方 海野長頸子

道後も松山も俳句には縁深いところですが、子規居士の遺髪を葬った寺もどこかがあると、宿へ遊びに来た俳句をやる少年が話して行きました、たゞあはたゞしく旅立つて来ましたので、虚子氏の松山に関する作品などを少しも読んでこなかったのが残念です。とにかく本上を離れた国だけにどことなくのんびりとした気分で、のんきに暮すにはい、ところどころです。この絵の城もい、城です公園には鳴雪翁の「元日や」の碑が新しく建つてをります。